

# 闘志あふれる若き努力家

○…大きな体に入懐こい 振り返る。社会人野球・三笑顔を浮かべながら「公式戦の結果がイマイチで、実力が足りないな」と改めて感じました」と今年1年を

## 人物風土記

題字は 横浜市市長 林文子



●保土ヶ谷シニアのOBで、現在社会人野球チームに在籍し将来を嘱望される

### 平尾 泰勢さん

常盤台出身 23歳

幼稚園児の頃、父親に少年野球の練習に連れて行ってもらったことがきっかけとなり、野球の世界へ。ピッチャーとしてマウンドに立ち、中学生になると硬式野球クラブ「保土ヶ谷シニア」に入団。肘のけがから内野手へ転向すると、打撃の才能が開く。ティーパーティンクなどで1日500回バットを振ったほか、食事にも気を使っていたという。「体が細かったので、食におにぎりを7個も食べたり、どんぶりでご飯を食べていました」とパワー源を語る。2年生にレギュラーを勝ち取ると、徐々に打順を上げ、3年の秋に4番の座に。今も自負するパワーカーの礎は、この時築き上げられたものだ。○…西区で寮暮らしをしながら練習で日々鍛錬を続

ける中、2週間に1度は顔を出すと、常盤台の実家が束の間の休息の場だ。両親が作ってくれる食事があり、親が作ってくれる食事がある。○…来シーズンの目標を「公式戦打率3割」と掲げる。今年「打ちたい」という気持ちで先走るあまり体が硬くなってしまい、結果が出ずさらに焦ってしまいうる。監督に言われた「全部打てるわけではない。打てるボールを狙っていけ」という言葉を胸に、現在研鑽の時を過ごす。「死にもの狂いで練習し、レギュラーをつかみ取りたい」。若き才能が目を見える時は近い。